

富山県総合計画審議会 第2回富山地域委員会

1 日時 平成29年11月20日(月) 10:00~12:00

2 場所 富山第一ホテル 3階 白鳳の間

3 出席委員(五十音順)

高木委員長、今家副委員長、金森副委員長(オブザーバー出席:古越副村長)、石川委員、上田委員、永崎委員、小柴委員、島川委員、白倉委員、瀬川委員、田畑委員、中川委員(オブザーバー出席:中村企画課長)、中田委員、野尻委員、羽根委員、舟橋委員(オブザーバー出席:朝倉副町長)、室伏委員、山田委員、山地委員

4 議事

- (1) 答申検討案(地域別の特性と取組み【富山地域】)について
- (2) その他

5 発言要旨

(1) 知事挨拶 石井知事

- ・ 本日、富山県総合計画審議会の第2回富山地域委員会を開催しましたところ、高木委員長をはじめ、委員の皆さまにはお忙しい中ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。
- ・ ご承知のとおり、昨年12月に新たな10年間の計画の策定について審議会に諮問させていただいて以来、審議会の全体会議や部会や青年委員会、また、この地域委員会も第1回を7月に開催させていただいて、皆さまから貴重なご意見を賜りました。さらには県会議員の皆さまとの意見交換や県内4カ所でのタウンミーティングの開催、計画骨子案についてのパブリックコメントを行ってきました。そのような中、去る10月に「活力」「未来」「安心」各分野の基本政策についての答申検討案を取りまとめたいただきました。今日はこうした積み重ねの上で、富山地域分の答申検討案を提示させていただくので、委員の皆さまには忌憚のないご意見をいろいろお聞かせいただきたいと思っております。
- ・ なお、地域別の特性と取組みのところは、5年前に総合計画審議会でも議論した際にも、あまりきめ細かく書くと、各市町村の施策・計画と少し細かなところで調整が出てきたり、あるいは地方分権の時代ですから、あまり書き過ぎると各市町村のいろいろな政策を県で事実上縛ってしまう面も出てきたりするので、そこは骨子を中心に大きな方向性を示すような書き方にしています。
- ・ この地域委員会の審議は今回が最終回ということで、せっかくの機会ですから、いろいろご意見を伺い、頂いたご意見を基に、今後、総合部会や審議会の全体会議でしっかり取りまとめて、来年の1月末か2月ごろにはこの答申をまとめたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

(2) 資料説明

<事務局より説明>

(3) 意見交換

【高木委員長】

- ・ 「地域別の特性と取組み」の答申検討案などについて説明を頂きました。この後、委員の皆さんからご意見を賜りたいと思っています。なお、ご意見はこの委員会の所轄する事項である「地域別の特性と取組み」についてのみならず、活力・未来・安心の各分野の答申検討案などについても幅広くご発言いただきたいと思っております。

【小柴委員】

- ・ 頂いた基本政策、活力・未来・安心は180ページ近くにわたり大変細やかにたくさん書いていただき、この案で実行していただければ、素晴らしい活力・未来になると思っております。
- ・ 私からですが、前回意見を出した子育て世代に対してもっと意見を定期的に聞くというか、アンケートを採るというか、意見交換の場を持ったりして、もっと政策をブラッシュアップして活かしてほしいという意見です。
- ・ それともう一つ、未来を担う子どもたちについてです。教育では学力だけでなく、特に社会に出ればコミュニケーション能力や自分で考えて行動できることが必要になるので、そういう教育も望まれるところです。そして、子どもたちに地域の特性や歴史、文化を理解してもらって、それを伝承し、ふるさとに誇りと愛着を持った教育をしていただき、また、子どもたちが都会の学校へ行っても、また地元に戻ってきて地域の地域の担い手となって活躍し、富山を盛り上げてほしいと思います。
- ・ 子どもたちの親御さんにも地域の企業、それから小規模のお店などをもっと理解していただけるような、そういう地域を知る活動も各地域に必要なだと思っております。なかなか地元の企業やお店を知らないということもあるので、もっと交流を深めて知ることが大事だと思っております。また、子どもたちがインターンシップをするように、学校の先生方にももっと地域の企業を知ってもらいたいという思いで、先生方のインターンシップ制もあればいいと思います。
- ・ あと、それぞれの市町村ごとに官民合同の意見交換の場が必要だと思っております。定期的に地域の活性化のために意見を交換する。そして、それぞれの中小企業・小規模企業が地域の雇用を守っているという自覚の下、地域を支え、元気にしていくということがより必要だと思っております。今後はますます官民学が一体となって連携し、いろいろな政策を進めていけばいいと思います。

【白倉委員】

- ・ 基本政策の答申検討案で一番良かったのは、県民が何をすべきかと。これが良かったです。ただ、一部のところでそれが抜けていたり、県民の順番が一番下に来たり、不統合がありました。

- ・ あとは先ほど、あまり細かくやると、市町村とのいろいろな兼ね合いというお話がありました。ただ、私はむしろ、そのように非常にやりにくい部分があるというのは大事だと思います。私に関わっている県の「とやま起業未来塾」、これは知事が大変力を入れておりますが、似たようなものは各市町村でもあるのですよね。私は、それはそれでいいと思うのです。ただ、何らかの連携、例えばどのようなことを、特に新しく仕事をする人は同じようなことをやっている人にどのような人がいるのか、そういうデータベース的なものも含めて、何かそういうことができないかなということがあります。
- ・ それから、私は富山駅前で魚屋を期間限定でやっていますが、やっていて気が付くことを申し上げます。やはり観光シーズン、特にアルペンルートが始まって雪の大谷が終わるまでは海外の方も含めて観光客が非常に多いです。もうそろそろ非常に少なくなっていて、ただ、リピーターも含めたビジネス客は非常に多いと思います。これは大変ありがたいのです。そこで一つ申し上げたいのは、新幹線が開業すると在来線の特急がなくなるというルールがあるのを私は知っております。しかしながら、今、大阪・名古屋方面については、名古屋はバスで補完しておりますが、やはり非常に乗り換え等が不便です。時間的にはその方が早くなったという話もありますけれども、特に魚津辺りからの場合は非常に不便です。新幹線が使える駅のそばはいいのですけれども。今後、まだ10年以上先かもしれませんが、さらに敦賀まで延伸してきたときに、本当は今の時点でもう金沢から名古屋・大阪方面までのものが毎日20本あるわけですから、相互乗り入れはできないのかと。現実にあいの風の乗務員さんや運転手さん、保線関係はほとんど転籍、あるいは出向でやっておられるはずですよね。今後、城端線や氷見線なども含めて、いろいろなイベント列車とか、ああいう九州でやっているような非常に豪華な、それはできるかどうか分かりませんが、そういうことをやることを考えても、ぜひそういうことを残していただくためにも、非常に無理な願いとして申し上げますけれども、そういうこともできないかなと思っています。
- ・ それから、空港の問題です。私のところもレンタカー等をやっているのですが、いろいろ分かるのですが、国内便のLCCを何とか誘致していただきたい。最近チャーター便とか、いろいろありますが、たまたま私も10月に行ってきましたけれども、それ以降、私の知っている人が3人ぐらい沖縄や福岡方面などに行っているのです。全日空の系統のLCCもあるので、そういうことができないものかなと思っています。

【山田委員】

- ・ 答申検討案を読ませていただきましたが、大変幅広く、丁寧に作られていると感じました。ただ、重点戦略でその方向性が出ているのだと思うのですが、何せ政策数が非常に多いものですから、分野ごとにしっかりと優先順位を付けて、成果が出るようにやっていただければと思っております。
- ・ 富山の場合は中小企業、あるいは小規模企業が件数では企業の大部分を占めます。この辺の元気がないと、なかなか富山自体も元気が出ません。この辺の施策も当然ありますが、十分、力を入れてやっていただきたいと思っております。
- ・ また、新幹線の開業効果の持続と深化についてです。やはり新幹線開業により交流

人口は明らかに増えていると思っております。そういった面でもその効果を持続させ、そしてその効果を活かすためには、さらに県の人口を増やすということを考えても、一番重要なところはやはり企業誘致ではないかと思っております。そのためにも首都圏での情報発信、とやまブランド、富山のイメージアップを図ることが非常に大事ではないかと思っております。

- ・ もう一つ、基本政策の25番に「国際的ブランド『世界で最も美しい富山湾』の活用と保全」という政策がございます。平成26年10月に富山湾の世界で最も美しい湾クラブへの加盟が認められました。さらに再来年の2019年（平成31年）に、この美しい湾クラブの総会が富山で開催されることが内定したと伺っております。実は今年9月に、商工会議所の経済視察でポルトガルに行く機会がありました。そのときに、この美しい湾クラブの理事長がポルトガルのセトゥーバル市長であったことから、表敬訪問をする機会に立ち合わせていただきました。その際に見せていただいたプロモーションの映像や、その後に郊外、高台のお城か、館か、そのような所に建てられたカフェから湾を見る機会があったのですが、非常にきれいに湾全体を見渡すことができました。その前に見た映像も非常に工夫されていて、印象深かったです。

そのようなことを踏まえて、当然、そういうことは考えていらっしゃると思いますが、タイミングとしては、やはり2年後にこのような総会を誘致することにほぼ成功したということであろうかと思うので、この辺の施策はそれに合わせて重点的に前倒しでやると。やはりタイミングが結構大事で、せっかくの機会を活かすということが大事ではないかと思うので、そのように進めていただければと思います。

この富山湾は非常に素晴らしい景色なので、それをどのように見せるかという見せ方の工夫、天候によっては何も見えないわけですから、映像などを使ってどのようにこの雄大さを感じてもらうか、その辺の工夫も非常に大事ではないかと思えます。それと、見ることができる場所です。やはり富山の場合は、上から見るとも湾越しに山を見るというのが最も訴えたいところであろうかと思うので、その辺をどのような形でどこで見ってもらうのがいいのか、そういった工夫も必要なのかなと思えます。

日本でこの美しい湾クラブに認められている湾が、富山湾を含めて4カ所ございます。松島湾、天橋立がある宮津湾は日本三景のうちの二つですし、それと富士山を背景に持った駿河湾、そしてこの富山湾です。どれも大変日本的な美しさがある景色だと思うので、富山も他の湾に全く見劣りしない、素晴らしいところだと思います。海外の方に訴える場合は、その辺の日本的な美しさも意識する必要があるかと思っております。

いずれにしても、他の施策も全てそうですが、中には非常にタイミングが大事なものもあろうかと思うので、その辺を見ながらまたいろいろと工夫して、実行に移していただければと感じております。

【田畑委員】

- ・ 第1回の委員会的时候には商工会の会員が非常に減るということで、ここ20年間に30万社ぐらい落ちていっているというお話をしました。1年に富山県の会員全部がなくなるような状態であり、その危機感を何とかならないものだろうかと思案していた

わけですが、今日のこの第2回は、中身については要するに10年先を見ながら今現在の状態で作っておられるということだろうと思いますけれども、中には進行が非常に速いものもあるので、果たして10年サイトでいかどうかということも一つの問題だと思います。

- まず一番分かりやすいもので、一つ新しい話をさせていただきたいと思っております。呉羽コミュニティバスは私が立ち上げたのですが、今、稼働で13年目に入っています。準備に2年間かかったので、15年前に免許証を返納したり、高齢者夫婦の片方が車を使わなくなったりしたら買い物難民になると予想して、これは絶対に必要だという信念の下につくりました。呉羽には6校下あり、自治振興会長が代わっていかれますが、その管理会社の取締役になっていただいています。なおかつ、自治振興会に5万円とか、10万円とか、出資してもらっています。6校下の自治振興会全て役員であり、出資者であるというのは、恐らくないのではないかと考えております。運営については、1所帯当たり400円ずつの協賛金を頂いています。若い人から全部、9500ほどあるのですが、やはりこれを浸透させるのに喧々諤々と実はやったわけです。ですから、町中を挙げてやったということです。

私が何を言いたいかというと、そういう共同体のような形でつくったコミュニティバスも、やはり周知するためにはいろいろな手があって、梨狩りツアーとか、花火大会とか、いろいろなお祭りとか、そういうことを開催しながら続けてきたわけです。2年間は赤字だったものの、3年間で何とか収支が合うようになりました。そういうサービスをやりながら、今、何を考えているかというと、バスの車両は低床式ですから歩いていけるのですが、70~80歳の年配者になると、荷物を両手に持って車から降りた瞬間につるつとやって、頭を打つと。両手に荷物をぶら下げていたらいけないということで、介護ボランティアを募集する制度をつくらうかと思っているのです。無料で、1日24便なのですが、1日1回でもいいし、1週間に1回でもいいし、10日に1回でもいいということで、介護ボランティアが乗り降りのときに手を貸してあげるという制度をつくらうかと思っています。35名ぐらいでスタートしようかなと思っていますが、割と反響が良くて、今年いっぱいぐらいにはできるのではないかと考えています。もちろんユニフォームを着て前の方に座って、荷物を持って乗るときと降りるときだけサービスしようということで、そういうことをやっていこうかなと思っているわけです。

そういう意味では先へ先へと、バスについても15年前に手を挙げて、今、12年たった時点で60万人のお客さんに乗っていただき、採算も合ってきて、これはもちろん富山市役所から県までみんなご援助いただいているわけですが、今、そういうことを考えているところです。次から次と新しいことを考えて練っていかないと、集客と言えればいいのか、認知と言えればいいのか、やはり認めてもらえないということではなかろうかと思って、細かくいろいろ考えて手を打っています。そういうことで、良い知恵があれば、またお聞かせいただければと思います。

【上田委員】

- 一つには、各市町村の施設を無料化されたらいかがでしょうか。陸上競技場も、体

育館も、子どもたちだったらみんな無料化しております。陸上競技場もそうですが、滑川にたくさんの方が来てくれています。使わなくても老朽化していきますから、みんなが利用してにぎやかになって健康になれば、料金どころではない利益があるわけで、そういうところにも着目いただきたいと思っています。また、滑川市では児童館を造りました。これも無料でして、滑川市の外から3割の親子が来ています。こういうことも含めて県内全体が無料化になって、お互いに交流するというのが大事だと思っています。

- ・ 私はお話ししたいことが10項目あるので、ざっと言います。まず、産科の話がありました。ありがとうございます。人口増については、9月に人口が20人増えました。そのうちの7名が自然増です。10月には45人増えました。いよいよ子ども政策が実を結んできたかなという感じがします。人口は増えます。第2子の保育料も無料にした結果がここに出てきたような感じがします。

いずれにしても、個別家庭では兄弟がいる家、それが元気になります。そして、子どもがたくさんいると、地域が元気になります。さらにお母さんが正規労働者として働けるようになれば、会社は女子力がついて強くなるわけです。所得の少ない方が子どもを学校へ上げられないということの解消にもつながっていくと思っています。よその市町村から来てもらいたい、取るという感じは、避けなければいけません。どこの市町村も全国どこも人口問題で悩んでいるのですから、あくまで個別の家庭の幸せ論から、この問題を取り上げているわけです。

- ・ 昨日は手話言語条例のフォーラムがございました。これは県の方でもやっていたいっているので、ぜひ進めていただきたいと思っています。
- ・ 次に、森林の話です。森林は、林業が何十年と随分長い間放置されてきた厄介者だったわけです。山林が随分と手を入れられないでいるので、林道を拡大して切り出しができるようにして、県産材を大いに使うような方向を示していただけたら、きっといいのではないかと。今、自分が持っている木を製材して使うと、全く自分のものではない木材を買うよりも加工代が高くなるという現象が起きています。これでは林業が進まないで、この点にも着目していただければ、健康な木材の物資ができてくるのではないかと思います。
- ・ それから大変な問題ですが、今、空き家がたくさんあります。そして土地も放棄田を含めて、放棄地がたくさんあります。この買い取りをどのように進めるかは、これから大きな問題になると思います。持ち主は寄付するという話を持ってくると思うのですが、これをどう受け止めたらいいのか、税の関係等を絡めると大変大きな問題だと思っています。
- ・ いずれにしても、子どもの問題や人口増に合わせて、私どもは今度、教育面については科学の時間を設けました。一生を生きる力の醸成において科学をもっと強化したいということで、理数教育を科学という方向に切り替えています。その点も強く、皆さんと話をしたいと思っています。

【羽根委員】

- ・ 大変きめ細かな計画を示していただいた中に、先般お願いしたコンベンション戦略

に関しても丁寧に入れていただいて、現場もこれから頑張らなければいけないという思いに至っております。

- ・ 富山地域はコンベンション、企業ミーティング、展示会などのいわゆる MICE の業界では国際会議都市として大変注目されています。先ほど世界で最も美しい湾クラブ総会の富山開催が内定したということも話題になっていましたが、実は国際会議の開催数の高い順位の中に富山が入ってきており、かなり健闘している状況がございます。

この MICE の参加者の目線で交通アクセスを見たときに、いろいろな課題がまだまだあるかなと思います。例えば大きなスーツケースを持って富山から五箇山に直接行きたいというリクエストもよく聞くのですが、どこかで乗り換えなければいけないとか、細かくチェックしていくと、コンベンションに参加する人たちが次の都市や次の地域に行くときのアクセスがまだまだ検討されなければいけないかなと思うので、ここに書いてある取組みの方向性の中の交通アクセスが非常に重要かと思っております。同時にやはり LCC、関西の方に安い航空運賃で直接入ってくる方も多いわけで、そこから富山を目指すことになる、先ほど言ったような大きい荷物を持っての移動が少しストレスになっているのかなということも含めて、この後の交通政策がすごく重要になってくるのではないかと思います。

- ・ それから、ここにも滞在型・リピート型の来街対策について手厚く示されていますが、1泊が付きものの MICE、コンベンションについては、経済、文化、観光といった各部署横断的な連携を引き続き強化していただきたいと思っています。この基本政策の内容も読ませていただきましたが、先ほどから言っている企業ミーティング (Meeting)、インセンティブツアー (Incentive)、コンベンション (Convention)、展示会 (Exhibition) の MICE という言葉はまだ出てきていません。中には大変いろいろな部署に散りばめられていて、きちんと M も I も C も E も出てきているのですが、総合的な MICE 戦略ということで次の段階では整理・強化していただければと思っています。

【山地委員】

- ・ まず富山地域に関する答申検討案、また、新総合計画の基本政策に関する答申検討案も、当県が直面している課題を網羅してあり、緻密におまとめいただいていると思います。基本政策の答申検討案について特に申し上げる点はございません。ただ、せっかくですから、富山地区に関する答申検討案について幾つかコメントいたします。
- ・ 一つ目は、当地区の交通機関のサービスレベルについてです。やはり東京標準を意識して体制を整えるべきだと思います。当地域は県庁所在地であり、新幹線や航空機といった基幹交通のターミナルもあります。首都圏からの誘客をする条件はそろっていますが、東京レベルの基準で体制を整えなければ、リピーターは期待できないと思います。例えば市電で PASMO、Suica が使えないとか、クレジットカードを使えるタクシーが少ないとか、東京のレベルを基準として考えれば、改善すべき点はすぐに見つかると思います。「富山は不便だ」という声が口コミで広がるのは避けるべきです。県民に利便性を供するものでもあるので、ぜひ前向きに取り組んでいただきたいと思っています。

- ・ 二つ目は、食の観光についてです。当地区にはミシュランの三つ星を獲得した「日本料理 山崎」や、有名なイタリア料理店が数多くあります。県のご尽力で、富山県美術館には「たいめいけん」がオープンしました。当地域の観光振興のために、これらの料理店を戦略的に活用していくことが大事だと思います。
- ・ 三つ目は、人手不足対策です。当地域は他地域に比べて産業集積度が高く、人手不足や後継者不足の問題がより深刻だと思います。Uターン・Iターンの促進、シニア層を対象とした管理者クラスのマッチング促進など、当地域が率先して取り組むべき課題だと思っています。
- ・ 最後に、新総合計画答申検討案についてコメント申し上げます。前回は申し上げましたが、戦略的な広報が重要だと思います。先週、11月16日ですか、NHKで放送されていましたが、全国魅力度ランキングの調査で当県は全国23位となり、去年の18位よりランクが下がっています。素晴らしい総合計画ができて、全国にうまくPRできなければ、期待どおりの経済効果は望めないと思います。広報戦略を新総合計画の柱として取り組んでくださるようお願い申し上げます。

【今家副委員長】

- ・ いろいろお話を聞きましたが、最終的には日本全体の話ですが、どう人を多くするかということが一番のポイントではないかと思っています。そうしたときに、やはり生まれやすい県、育てやすい県ということを中心に考えていただくことから始まれば、自然に人口が増えますし、それから労働人口も増えるという形で、良い県になっていくと思うのです。
- ・ 私は企業をやっていますが、今、人を集めるのは非常に大変です。特に途中入社の方を集めるのは大変です。そういう意味では、新規の高校卒業生や大卒の方々がより富山県に魅力を感じるような施策も含めて、そういう形を取っていただければ非常にありがたいと思います。このようにまとめていただいたのを見ると、一つ一つは非常に素晴らしいのですが、何かポイントを持って、それを中心に進めていただきますようお願いできればと思います。

【高木委員長】

- ・ 知事にコメントを頂く前に、私からも一つ。この計画ができた後で県民、そして各団体が何を役割分担するべきかについて書いてありましたが、これはとても良いことだと思います。県に何かしてくれとばかり言うのではなく、自分たちは何ができるかをしっかり書き込んでいくことが大事だと思います。今、山地さんのお話にもありましたが、PRは県だけではできないので、やはり各団体、一人一人がそれぞれの分野でこれを踏まえてどうやっていくかということを書き込むようになったのは、すごいことだと思っています。
- ・ ここまでのところで石井知事からコメントをお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【石井知事】

- ・ どうもありがとうございました。最初の方で、子育て世代に定期的に意見を聞くようにしてはどうかというお話がありました。これは今度の総合計画でも青年委員会をつくりましたが、いろいろな世論調査をする際にも、テーマにもよりますけれども、例えば少子化対策や子育て支援などについては、当然、子育て世代にターゲットを絞ったような世論調査もしていますし、それからできるだけ各市町村を回って、これは市町村ともご相談し、地元の商工会議所、商工会等ともご相談しながら、若い世代と話をするというのもやっております。これは今後も努力していきたいと思います。
- ・ また、お子さんたちに地域に愛着を持ってもらって、大学は大都市に行っても、また戻ってきてもらえるということがもちろん大切かと思えます。それから、学校の先生や親御さんが案外、地域のことをご存じないということもあります。富山県はUターン率を上げるために、最初は学生だけを対象にしていたのですが、どうも最近の学生は就職を決めるときに親御さんに相談するケースが割と多いのですね。それで、保護者の方を対象にしたUターン説明会も始めて8～9年たつのですが、そういったことも努力していきたいと思えます。また、案外、学校の先生が地元の企業のことを知らないということもあるかもしれないので、そういった点は教育委員会とよく相談してまいりたいと思えます。
- ・ それから、新幹線開業による良い点は多々あるのだけれども、大阪方面が不便になったというお話がありました。これはよく分かるのですが、当時、JRと何度も折衝し、結果として金沢と高岡・富山間をつるぎが走ることになりました。なかなか乗車率が思ったほど上がっていないという問題もあるのですが、これをさらに例えば東の方に延伸できないかということも含めてJRと議論しております。少し時間はかかるかもしれませんが、一方でももちろん、早く京都・大阪までつなぐことが一番大切です。ご承知のように、昨年暮れから今年の3月にかけて、長年決まらなかったルートは小浜・京都ルートに決まりました。あと、今までは「財源をもう使い果たしたから、札幌が開業したころにその先の議論をしましょう」という雰囲気だったのですが、そんな悠長なことでは困ると。投資効果が一番高い北陸新幹線を最後に整備しているという、済んだことは仕方ありませんが、そのような残念なことを繰り返してはいけませんので、今は札幌開業前後まで、つまり13～14年後には京都・大阪まで何とかつなげないかということに全力を挙げています。これは高木委員長をはじめ、民間の皆さんにもご支援を賜っていますが、今後も努力していきたいと思えます。
- ・ あと、世界で最も美しい湾クラブについて、いろいろご助言を頂きました。お話にあったように、まだ内定段階ですが、来年4月にフランスで総会があり、2年後に首尾よくいくと富山県で総会を開催できることになっています。まさに世界からいらっしゃる皆さんはそれぞれ自分たちが誇りに思っている美しい湾をお持ちで、各地域の名士がいらっしゃいますから、そういう皆さんに富山県、富山湾の雄大で美しい風景をいかに見ってもらうかと。お話にあったように天候が悪い場合もありますし、また、この機会に食べ物の魅力とか、もちろん立山連峰とか、富山県のものづくりや文化も含めてしっかりアピールできるように、しっかり準備していきたいと思っております。
- ・ また、コミュニティバスでの乗り降りを介助する仕組み、ボランティアの仕組みを

つくられていらっしゃるというお話が田畑さんからありましたが、本当にご努力に敬意を表したいと思います。

- ・ さらに上田市長から、スポーツ施設などの無料化のご提案などがありました。富山県では、文化施設・スポーツ施設については高校生まで無料にしています。70歳以上も無料にしたのでしたか。それで高校生まで無料にしていると言ったら、この間、富山県美術館で国の内外から著名な方が来てパネルディスカッションをやったのですが、少なくとも日本の有識者は驚いていました。「中学生ぐらいまでかと思ったら、高校生までやっているのですか」ということで、これでも意外と先進的なのです。本当は大学生も無料にしようかなと思うのですが、そうすると高校を出て就職した人とのバランスがどうかと思ったりすると、それから全部無料にするとすっきりしているのかもしれませんが、滑川市は財政にゆとりがおありなのかもしれませんが、全体としてどちらがいいか、こうしたことはまたしっかり考えていきたいと思います。
- ・ それから出生率を上げて、また、滑川は企業立地も進んでいますから、自然増になっていることは全く御同慶の至りです。今後も連携しながら頑張っていきたいと思えますし、科学を充実したいというのもごもっともです。富山県は8〜9年前から「とやま科学オリンピック」を始めて、全国からも注目されておりますが、また滑川市をはじめ、意欲のある市町村としっかり連携していきたいと思えます。
- ・ また、MICE についてしっかりまとめて打ち出してはどうかというご助言も頂きました。これは中でよく相談させていただきたいと思えます。
- ・ その他、山地さんから戦略的な広報というお話がありました。山地さんご自身、信用金庫のネットワークを使って随分とお客さんを富山に引っ張ってきてくださっており、大変感謝申し上げます。また、最近、東京では「富山県は頑張っているな」と思われているようですけれども、ただ、少しつらいのは、あのようなものは都道府県によって基礎票が違うことです。例えば神奈川県は人口が九百数十万人ですから、世論調査をやると、やはり人口比例で調査するのが普通ですから、基礎票が違えば、こちらが同じ、あるいは場合によってはこちらの方が少し良いことをやっても、結果としては得票率が低いという面もあります。ですから、そういった点も割り引いて見なければいけないところもあると思えますが、これは大事なことですから、頑張ってまいりたいと思えます。
- ・ 今家さんからは、産みやすい県・育てやすい県ということなど、もっとポイントをまとめてアピールしたらどうかというお話があったかと思えます。全体としてこの計画を、いずれにしても概要版を作ったりして、多くの県民の皆さんはあれを全て最初から最後まで読むのは難しいと思えますから、できるだけポイントを絞って、幅広い県民の皆さまにご理解いただくと。それから、高木委員長が言われたように、読んで「そうか、そうか」と思っただけではなくて、「では、自分もここで一役買おうか」「この分野はひとつやってみようか」というものにつながるよう努力していきたいと思えます。

【高木委員長】

- ・ ありがとうございます。それでは、引き続きご意見を賜りたいと思えます。

【永崎委員】

- ・ 頂いた資料を全般的に読ませていただきました。多方面にわたり、また、細部にわたり施策をお示しいただいていると感じております。前回のときにも意見があったように、これからは選択と集中によって各分野で優先順位を付けていくことが大事ではないかと思っている次第です。
- ・ 話は飛びますが、もしかしたらご記憶の方もいらっしゃるかもしれませんが、本年、東急電鉄さんとお話をする機会がございました。本年10月9日に東急電鉄さんが池上線を1日乗り放題という大変大胆なイベントを実施されて、話題になっていました。池上線は首都圏の中でも、知っているけれども乗ったことがないという線でしたが、東急電鉄さんはチラシを作って一生懸命PRに努めていらっしゃる、それはどういう中身だったかという、各駅にある街の情報とか、街角にある食堂がおいしいとか、こういう面白い店があるといった、割とチープな情報が満載のチラシでした。結果、多くの乗降客があつて、池上線を知ってもらう、意外に昭和の香りがする街であるというPRは成功したのではないかと思います。
- ・ いろいろ賛否はあるかもしれませんが、今回の富山県の選ばれていく観光地づくりということを見ると、やはり地元の方にどう利用されている地区かということは非常に大事だろうと思います。観光客の方が利用されても、それはなかなか長続きしません。やはり地元の方にしっかり楽しんでもらうことが大事です。ただし、地元の方は車で動かれるということで、割と公共交通を利用される方は少ないです。できるだけ公共交通を利用していただき、それで楽しんでもらうということを考えていくのは、やはりこれからも大事ではないかと思います。先ほど氷見のお話もありましたが、氷見に行く場合もそうですし、駅の方から街中をどう楽しんで、どこで富山湾からの素晴らしい景色を見てもらうかということをしっかりPRしていく、インフォメーションするということが大事なだろうと思います。
- ・ 今回、県民参考指標候補案として外国人客数のことにも触れられていますが、これからはしっかり支持を得られるのであれば、アジアだけではなくて、欧米からの評価は非常に重要ではないかと思います。私が同行させていただいた8月のスイス等の先進地の視察で感じたのは、世界で最も美しい湾を楽しむ、あるいは私どもの事業である立山黒部アルペンルートを楽しむというとき、期待される景色が見えなかった場合でも、お客さまにどう楽しんで帰っていただくかということです。これからはぜひ地元の皆さんと一緒にまちづくりが非常に大事なことはないかと思います。

【島川委員】

- ・ 資料を読んで感じたのは、何事も人づくりから始まるという思いでした。魅力ある街には自然に人が集まると思いますし、そのような街をつくっているのは、そこに住んでいる人だからです。日本を担う子どもの育成も人づくりは、まず子どもの時からと強く心にひびきました。自分が楽しかったり感動したことを具体的に人に伝えるのは、小さいときからのそれを育む教育がとても必要だからです。
- ・ 最近、新聞で毎日のように小中学校の行事等が載っていますが、富山にたくさんある良い施設が活用されていない気がします。美術館の見学や音楽会、ミュージカル、

お芝居、映画鑑賞等、子どもたちの年代に合わせた見せ方や体験がたくさんできれば、情操教育が根付き、子どもの根っこになると思います。そんな機会をもっと増やしていただきたいです。

- ・ また、私は店をしていますので、観光に関しても、人が大切だと痛感させられます。例えば富山駅に降りた第一歩の観光案内で富山の印象の良し悪しが決まりますし、お店や道路で物を尋ねられた時の対応でそれは決まってしまう。

来店されるお客様に「富山はどうか」と伺うと、みなさんが富山県民はとても親切だと言われます。今までの県民は口下手で「何もないちゃ」と言っていた時から見ると、随分進歩したとうれしくなります。新しい取組みも大事ですが、富山へお客さまを迎える私達のブラッシュアップが子ども達の育成と共に大事だと思います。

【中田委員】

- ・ 答申検討案は多岐にわたり、よくまとめられていると思いますが、冒頭にあったとおり、やはり人口が減っていく中で活性化していくためには、観光客の誘致は欠かせないと思います。国内外を問わず、観光客にいかに富山県内で消費してもらうかということが一番大事なのだらうと思います。

そのためには冒頭にあったように通年で観光客を呼び込むということで、観光産業を育成していくと。先ほど交通の話もありましたが、一時的な需要にだけ対応していくのは非常に難しいです。やはり通年でお客さまがおみえになれば、そういう交通アクセスも十分ペイできるようになってくるのだらうと思います。

- ・ 特にお願したいのは、富山県内への外国人の入り込みとなると、どちらかというところ東南アジア、台湾、中国が中心になっていますから、やはり欧米の方に来ていただくための工夫も必要ではないかと思います。特に発信の中で、伝統はいいのですが、五箇山でも立山でもそうですけれども、やはり歴史という切り口は特に欧米の方には注目される部分ではないかと思います。天気が悪いときでも、歴史の探訪ぐらいであればできるのではないかという気もしますので、ぜひ歴史という切り口も一つ加えていただければと思います。

【室伏委員】

- ・ たくさんの施策をひととおり読ませていただいたのですが、前回、私の仕事場が商店街だったので、そちらの商店街の役割がだんだん変わってきているのではないかと申しあげました。たまたま私が喫茶店をしているということもあり、いろいろなお客さまがみえるのですが、先だって私の友人である子育て中のお客さまがみえたときに、商店街にみんな遊びに行きたいけれども、商店街に子どもを連れてきても、子どもと遊べる場所がないという話をつくづくしていました。また、子育て中でおむつ替えをしながら自分も用を足したい場合に、そういう場所を探し回るのはすごく大変だという話もありました。それで、何か商店街の中に子育て中のママたちが子ども連れで行ける場所ができないかという話をしていました。
- ・ 子育てに関しての施策はいろいろあると思いますが、よく聞くのは、子育て中の子育ての悩みももちろんあるのですけれども、今、産休を取っている方が多いのですが、

産休というのは案外、ママたちが孤独・孤立に陥りやすい時期でもあります。ですから、ママのメンタルのサポートはすごく大切になってくるのですが、そういう意味でもママたちが気軽に集まれる場所が必要です。公共施設だと、そういうところはあるのですが、そこでは飲食ができません。例えばお弁当を持ってきて、子どもたちと一緒にそこでお弁当を食べたいとか、みんなで集まって、ママたちと一緒に話をしながら何かを食べたいと思っても、そういうことができないので、そういう場所ができたらいいなという話をしていました。

- ・ さらに、今のママたちは大変活動的なので、子育て中も子育てだけに専念するということはなくて、集まって何かをやりたいという意欲もすごくあります。そういう人たちが集まって、自分たちで何かをしようと思ったときに、どこに行っても誰にどう相談したらいいのか分からないということで、ここの施策の商業サービスの中に若者・女性の活動の支援をするということがありましたから、そういう方たちの受け皿となる何かがあるといいなと思いました。
- ・ もう一つ、先だって私どもの店にシアトルから来たお客さまがふらっとおみえになりました。大きなカメラを掛けていて、「観光ですか」と聞いたら、「それもあるけれども・・・」と。東京、京都と行ってきて、では、なぜ富山に来たのかと聞いたら、和紙に興味があると言いました。「八尾へ行って、和紙づくり体験をしてきた」と言われて私は大変驚いて、本当にふらっと来た女性がそのようにしてきたということで、恐らくはネットか何かで見つけて自分で来たのだと思いますが、観光も、それこそ立山アルペンルート等の観光名所に力を入れるということも、それはそれで一方であると思いますけれども、今の観光客、特に欧米の方たちは体験型で、その地域の方たちとの触れ合いができるようなディープな観光の仕方をされていると聞いています。高山などはまさしくそういう感じなのですが、そういう意味では、まだまだ富山市内も八尾やいろいろな所を掘り起こせば、いろいろな魅力を発信できるのではないかと思います。そのようなインバウンドも、もう少し地域に密着した形のものをどんどん世界に発信していくと、それこそバックパッカーが世界中から来るということもあるのではないかと思いますので、そういうこともぜひご検討いただければと思いました。

【瀬川委員】

- ・ 資料を見せていただいて、私は未来とやま、人づくりというところで、本当にこれが実現すれば、富山で子育てをしたい、子どもたちと一緒に大きく成長できると思いました。教育はさまざまなトラブルを未然に防ぐということで、何においても教育は大切だと思います。県の方でも親学びなどをPTAと一緒にやっていただいて、人と人をつなぎ、孤独な親をつくらないということ、それから家庭教育力の向上に努めてくださっていて、本当にありがたいと思っております。私は富山県の教育というか、全体的な印象として、きめ細やかで距離感が近い、そして熱心であるところが魅力だと思っております。
- ・ 今、話題の高校再編についてですが、私は中新川の上市から来ているのですが、そちらだと新川地区になります。こちらでは富山地域ということで来ているのですが、中学校の部活の大会等も新川地区に組み込まれるのですけれども、再編の説明会は新

川地区で2回、富山地区で1回参加させていただいて、本当に真剣に、真摯に子どもたちのことを考えてくださっていて、ありがたいなと思って聞いていました。これはPTA 連合会としての意見ではなく、あくまでも私的というか、私どもの地区の保護者の意見なのですが、平成30年度の定員数を見たところ、われわれの子どもたちが通うところの普通科はクラスが4つに減って定員が160人となりました。その選ばれた学校がいわゆる大学進学を目指すような生徒さんが希望する学校ばかりで、子どもたちは少し不安に思っています。そもそもの子どもの数が減少するとはいえ、どうしてこの学校なのだろうという不安の声も保護者と子どもたちの間から聞かれます。

- 何が言いたいかという、再編においてはいろいろな考え方があるとは思いますが、あまり地区にこだわらず、例えば滑川・水橋の統合とか、いろいろな考え方があるとは思いますが、いま一度、本当に地域との関係もあると思いますから、またみんなで一緒に考えていければと思っております。その学校の特色・特性がありますし、あとは特色ある私立学校という選択肢もあるかと思っておりますので、またみんなで一緒に考えていきたいと思っております。
- これは私の子どもとの会話の中から出てきたことなのですが、先ほどから女性の働き方のお話があったと思うのですが、先日、中1の娘が職業調べという課題を持ってきました。それで、「お母さんが答えてあげる」と言ったら、「いや、お母さんの仕事は分かりづらくて書けないから嫌だ」と言いました。私は何をしているかというと、家が寺院なのです。それでパートでも働いていますし、フリーで講師業のようなこともしています。PTAはボランティアなのですが、結構な時間を割いてやっているの、パラレルワークというのでしょうか、いろいろな働き方があると思うのですが、ここで言うところのキャリア教育で、産業界の方では主に就業・職業の教育になると思うのですが、文科省の方では恐らく一人一人が幸せに、いかによりよく生きるか、広く生き方教育のようなことを捉えていると思います。

【石川委員】

- 富山県美術館は8月末に正式開館してから50万人以上が入館されたということで、特に若いファミリーが来ています。それは屋上が庭園になっていることと、それからワークショップの通年化ということで、新しい美術館になってからは、専門の学芸員の方が非常に工夫してワークショップをほとんど毎日やっています。そのために親子連れが来ていて、それはお父さんと子どもの場合もあれば、お母さんと子どもの場合もありますが、あるいはパパもママも付いてくるとか、いろいろな若い方たちが非常にたくさん来てくださって、これは本当に小さいときから芸術に親しむという意味では本当に良いことだと思っております。
- 入館者増ということで、旅行者にも来てほしいという意味では、分かりやすいアクセスというものをきちんとした方がいいのではないかと思います。この前、自分の意見としてそういうことを出したところ、駅にはちゃんとデジタルサイネージというのですか、そういうもので出しているとか、それから案内図も北口と南口にあるということでした。これには外国語表示はあるのでしょうか。もし外国の方にも来てほしいということであれば、少なくとも中国語、韓国語、英語は入れてほしいと思います。

金沢は随分そういうことを考えて、多言語でいろいろやっているようなので、富山も負けずに、この先ゴールデンルートを目指すのであれば、なおさらそれが大事ではないかと私は思います。

- ・ それから、日本橋の富山のアンテナショップですが、私はこの間、少し中に入りました。富山県内の美術館のパンフレットも置いたりして、他県から呼び込むことは大事ではないかと思っています。

【野尻委員】

- ・ 富山県が持続的に発展していくためには、やはり広域的な交通ネットワークの整備は重要なポイントだろうと思います。先ほどお聞きした大ゴールデン回廊の構想ですか、これは誠にそのとおりです。

それで私は思うのですが、富山と高山、名古屋を結ぶ中央線も、これからますます重要なポイントになってくるのではないかと思います。その点で富山高山連絡道路の整備をどんどん進めていただいているのは誠に結構ですが、高山本線は本来、中央線の整備の意味で戦前に造られたはずなのですけれども、経営母体が途中で二つに分かれたこともあり、最近はあまり活力がないというか、本当は観光の面から言っても重要どころだと思うのですが、大ゴールデン回廊の中央線というのをもう一つ視点に置いていただきたいと思います。

- ・ もう一つは、富山県の自然景観はいろいろな面で大きな柱であり、重要な面ですが、心配なのは、野生動物が人口減少に反比例して増加してきていることです。その結果、どうなるかという、人間の居住域がどんどん攻められてくるとともに、農林水産物等の特産品とか、そのようなものにまで大きく影響してくるわけです。悪い冗談になりますが、10年後を見たら、富山県庁や富山城址公園の辺りにサルやイノシシまで出てくるとか、そのような恐ろしい共生社会は要らないと思うので、ぜひ従来の動物等の管理計画をもっと強力に進めて、捕殺処分や追い払いなどいろいろあるのでしょうか、外国で一部やっているようにホルモン剤による個体の調整については、考え方も、研究もどんどん進めていっていただければと思うわけです。

【朝倉オブザーバー（舟橋委員代理）】

- ・ 安全・安心という分野で施策の方にいろいろ書き込んでありますが、常願寺川、栃津川、白岩川対策など、富山地域の河川対策・治水砂防対策については引き続きお願いしたいと思っております。特に立山町は弥陀ヶ原火山災害警戒地域に指定されており、今後、ハザードマップの作成などが予定されていますが、安全・安心対策ということで、引き続きお願いしたいと思っております。
- ・ 2点目として、立山黒部のブランド化については、立山町としてもアルペンルートの観光客に少しでも街中に立ち寄ってもらえるよう努力したいと考えております。
- ・ 最後に地域公共交通については、先日、私も地域公共交通会議の現地視察に参加させていただき、泊の方から富山の方まで乗り継いできたのですが、たくさん的高校生や県民の方々の生活の足となっているので、将来にわたって地域公共交通が生活路線として確保されていることが大変大事だと感じております。

【中村オブザーバー（中川委員代理）】

- ・ 本来ならば中川町長が出席して意見を述べるところですが、本日、明日と東京に出張しており、私がオブザーバーで出席させていただいています。
- ・ 当地においては10月17日に今の中川町長が就任し、1回目の委員会においては伊東前町長が出席していたのですが、伊東前町長が意見を述べられた3点については的確に対応されていると思っております。また、計画の中にも、仮称ではありますが、固有名詞で上市スマートインターチェンジの推進ということを挙げていただいております。誠にありがとうございます。今、当地においてはそれが正念場で、用地交渉に入っております。頑張っていきたいと思っております。伊東前町長のベクトルを変えずに、その方向で踏襲していきたいというのが私どもの考えなので、今後とも上市町をよろしく願います。

【古越オブザーバー（金森副委員長代理）】

- ・ こちらも村長が上京しており、私がオブザーバーということで出席しています。皆さんがご意見を出されているので、私からは大変細かいことで申し訳ございませんが、答申検討案の2ページの右下に富山地域が書いてありますけれども、他の地域は5行にわたって記載されていますが、富山地域のみ4行になっています。ぜひもう1行付け足していただき、富山地域を紹介していただければと思っております。

【高木委員長】

- ・ ありがとうございます。まだまだご意見を賜りたいところですが、ここで知事からコメントをお願いします。

【石井知事】

- ・ どうもありがとうございます。それぞれ貴重なご意見をありがとうございました。全般を通じて、これからはアジアだけではなくて欧米のお客さんにたくさん来てほしい、そういう方々の評価をというお話がありました。それから個人旅行になり、また、体験重視となっていること、さらに欧米のお客さんには歴史や文化が大切だという方が多くなっていることは、全くそのとおりだと思います。

私どももここ数年にわたり努力して、『ミシュランガイド』のレッドブックや『ゴ・エ・ミヨ』も出してもらい、最近はまだ「ミシュラン・グリーンガイド富山WEB版」も出してもらっています。例えばグリーンガイドで言うと、県内には三つ星が3カ所あります。立山黒部アルペンルート、雪の大谷、五箇山です。こういうことを言っただけではいけません、例えば東北6県で調べてみると、三つ星が付いたのは3カ所しかありませんから、やはり富山県には観光資源が非常にたくさんあると。また、国際的に見ても評価してもらえるものが多いということかと思えます。このように欧米の方が広くご覧になって、それで旅行されるようなガイドブックに載せるということもやってきました。先ほどの戦略的な広報が大事だということと絡みますが、一層努力してまいります。

- ・併せて、ガイドの人づくりが大事だというお話もありましたが、「とやま観光未来創造塾」を6年ほど前にスタートさせて、いろいろなコースがあるのですが、最近では新たにグローバルコースをつくりました。3年ほど前からスタートしたのですが、そこを出た女性の方が、今、八尾で、中国語もすごくできて、いろいろな所に欧米の方や中国の方を非常に親切に、かつ、的確に案内されて、随分お客さんが増えていっているように思います。人が大事だというのはそのとおりだと思うので、観光未来創造塾もそうですし、起業未来塾も含めて、そのようなことを今後もさらに努力していきたいと思います。
 - ・それから、お話の中で女性の方、特に子育て中のママさんが孤立しがちだという点がありました。そういう方々が集まる場所としては、これはむしろ市町村行政が中心かもしれませんが、県としてもファミリー・サポート・センターや、そういう女性の方々が集えるような場所も用意しています。ただ、まだまだそういうご意見が出るというのは、やはりよく知られていないのか、そもそも数が足りないのか、こういった点は市町村とも相談しながら進めていきたいと思います。
 - ・また、大ゴールデン回廊については、ご評価いただいておりますが、お話に出た高山線の話は本当に私どもも苦心しており、高木委員長にも少しお力添えを頂いたことがありますけれども、岐阜県の古田知事も連携しながら、JR東海は古田知事にやってもらい、JR西日本は私がやって、ささやかですが、ようやく平成28年4月からもう少し便利なところに乗車率が非常に悪い便を移してもらうようにしたら、2年前に比べて10%前後、利用客が増えたりしています。まだまだポテンシャルはあると思うので、できればせめて1便ぐらい増やしてもらえないかと。名古屋からは特急が10本あるのですが、こちらは4本しかないという問題もあるので、さらに努力していきたいと思います。
- 大沢野・富山南道路は、今、一生懸命やっておりますが、こちらの方はかなり順調なのですけれども、岐阜県側がなかなかつなげてくれません。今の古田知事になってからはかなり協力してもらっているのですが、どうしても岐阜県から見ると、名古屋の方に目が向いてしまうのです。それをぜひ日本海側、富山県に目を向けてもらおうと思って、だいぶ成果も出ていますが、さらに努力していきます。
- ・その他、それぞれお話が出た常願寺川や白岩川等の河川対策やハザードマップ、上市のスマートICについてですが、このようなことは各市町村と連携して、今後もしっかりとスピード感を持って進めていきたいと思っておりますし、最後にもう1行書いてくれというお話もありましたので、これはまた事務方とよく相談して、他の地区と同じように富山地区も大事だと思っていますから、誤解のないようにしたいと思います。

【高木委員長】

- ・ありがとうございます。他にもいろいろとご意見がございましたが、時間もだいぶ押しているので、本日の会議はこのあたりで閉会としたいと思います。閉会に当たり、全般を通して石井知事から一言お願いいたします。

(4) 閉会

【石井知事】

- ・ 今日には本当に貴重なご意見を頂きまして、ありがとうございます。実はまだ言い足りないという方もいらっしゃるのかもしれませんが、そういった点は文書なり、いろいろな形でお伝えいただいて、できるだけ私どももそれを活かしていきたいと思えます。

冒頭に申し上げたとおり、地域委員会はこれで最後ですが、この後、総合部会で県内四つの地域についての記述を全体的に調整します。さらにもう少し大きな視点で書き加えることがあれば、付け加えます。そして、最終的には全体会議で議論して、来年の1月末か2月に、できるだけ早く取りまとめたいと思っております。何人かの方からお話があったように、文章はいくら立派なものができるても、実行しないと話にならないので、しっかり頑張ってもらいます。

- ・ なお、先ほどお答えしましたが、例えば富山県美術館や観光地への案内、外国人も増えていますから英語表記など、いろいろなことについて努力していきたいと思えます。今はもう随分進んできていますが、ただ、これもいろいろな専門家に聞くと、分野によって英語表記や中国語表記、台湾語表記などいろいろやった方がいい場合と、あまりにも煩雑になって、つまり日本に来るような外国人には英語ぐらいはある程度できる人が多いので、むしろ日本語と英語だけでいいのではないかというご意見もかなりあるので、こうしたことについては施設の性格やどのような方がいらっしゃるかなど、いろいろなことを念頭に置きながら、しっかりと対応していきたいと思えます。
- ・ 今日はどうもありがとうございました。

【高木委員長】

- ・ 知事、ありがとうございます。なお、本日の会議は富山地域委員会としては最後の委員会ということになりますので、本日の議事の答申検討案「地域別の特性と取組み【富山地域】」については、本委員会として取りまとめの上、この後、総合部会、審議会に諮り、最終答申の取りまとめを行っていききたいと思っております。

先ほど事務局から説明があったように、来年1～2月に開催を予定している総合計画審議会で答申案を審議することになりますが、この間、国の動きや県の予算編成なども見ながら、若干の調整を必要とすることも考えられます。この内容の調整については、時間の関係で本日は十分に意見を言い尽くせなかった方も多々おられると思えますので、お手元にご意見の記入用紙が配付されております。これだけはぜひ検討してほしいということがあれば、事務局に郵便、ファクス、メール、何でも結構なので、ぜひお願いします。

そういうものを踏まえて、その内容等については委員長である私と事務局で十分協議した上で、答申案の最終内容を出したいと考えております。この修正・加筆、また、調整について、委員長である私にご一任いただきたいと思えますが、いかがでございましょうか。(委員から異議なしの声)

よろしゅうございますか。それでは、そういうこととさせていただきたいと思えます。ありがとうございます。

委員の皆さまには、最終答申案を事務局からお送りしてご確認させていただきたい

と思っていますので、よろしく願いいたします。